

RUBeC 演習

上野直人

Naoto UENO

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、2016年8月13日から29日まで開講された龍谷大学の留学プログラムである RUBeC 演習に参加しました。アメリカ合衆国カリフォルニア州でホームステイをしながら、同州のバークレー市にある Jodo Shinsyu Center で英語の文法とプレゼンテーションについての授業を受けました。また、現地の企業や龍谷大学の協定校である UC DAVIS へ訪問することで、現地の企業や大学について知ることが出来ました。

2. 参加目的

私が RUBeC 演習に参加した目的は二つあります。一つめは英文の作成するための技術とプレゼンテーションの技術を学ぶためです。二つめはホームステイを通して旅行や観光では分からないような実際の生活や文化を体験することで、英会話の上達や柔軟な思考を得ようと考えたからです。



3. 授業内容

3.1 テクニカルライティング

午前は英文の作成技術や文法を学ぶテクニカルライティングの授業がありました。この授業は正しい文法や作文技術を学ぶことで、事前に書いた自分の研究の英文要旨を正しいものに直していくというものです。日本語には a, an, the といった冠詞の概念がありませんためとても苦勞しました。しかし、先生が例などを出しながら教えてくださり、また、こちらの質問に対しても丁寧に答えてくださいました。授業は全て英語で行われ、先生への質問や会話も英語のみでしたが、分からない単語は調べたりしながら伝えることが出来ました。

3.2 英語プレゼンテーション

午後からは英会話に必要な技術やプレゼンテーションを行う授業がありました。ここでは発音やワードストレス、チャンクなどを学びました。ワードストレスは文章中の伝えたい語句を強調すること、チャンクは文章を意味のあるかたまりに分けて発音することで会話の内容がより理解しやすくなるというものでした。発音というと L と R といったものがよく取り上げられますが、それと同じくらい音の強弱も英会話には重要なものだと知りました。また、人の注意を惹くためのプレゼンテーションも学びました。ジェスチャーを多く用いることや、専門用語を出来るだけ使わず、簡単な言葉で説明することで、誰でも理解できるプレゼンテーションを目指しました。

4. 企業見学

一週目の水曜日は、Thermal Technology 社に企業見学をさせていただきました。同社は、プレス加工や熱加工の他、アメリカ国内でも少ない放電プラズマ焼結法 (SPS 法) と呼ばれる技術を用いて製品を加工、生産を行っている会社でした。材料の特性をより生かすことのできる SPS 法により、NASA や

Appleにも納品を行っていました。SPS法を用いて大学と共同研究も行っており、様々な分野で役に立っている技術だということを感じることができました。

5. 協定校訪問

二週目の水曜日には、協定校である UC DAVIS を訪問をしました。カリフォルニア大学は10ものキャンパスがあり、その中でもデービス校は22 km²という広大な土地を保有しています。ヨセミテ国立公園などの広大な自然がシリコンバレー、サンフランシスコといった都会から近いため、あらゆる研究の成果をすぐに実証することが可能となっているそうです。学生の約40%は留学生で、意欲の高い学生同士が国境を越えて研究に没頭していると聞きました。自分の専攻する学科を途中で変更する学生は約50%ほどいて、自分の興味が変われば他の学科へ移動できる環境があることは日本の大学とは違うものだと感じました。



6. ホームステイ

このRUBeC演習で私がとても楽しみにしていた

のがホームステイでした。家族の一員になるホームステイを通して、旅行のホテルなどでは出来ない経験がとてたくさんありました。ホストファミリーは当然英語しか話せないで、自分の言いたいことを伝えるために体を使って表現したり、電子辞書などで単語を調べたりしながらも何とか会話を続けていました。最初は相手の言葉が上手く聞き取れず何回も聞き返したり、自分の言いたいことをどう表現すればいいかが分からず戸惑ったりしましたが、日々の授業で学んだ表現の仕方などを用いることで、少しずつ自分の言葉が表現出来るようになったり、相手の言葉が聞き取れるようになっていきました。表現の仕方が増え、自分の考えを正確に伝えることや、相手との会話が続くようになることをとても嬉しく感じていました。また、休日には色々なところに連れて行ってもらったりと、ここでも旅行では出来ない体験をすることができました。

7. おわりに

RUBeC演習を通して、英文の作成技術やプレゼンテーション、英会話をするときのポイントなどを学ぶことができました。また、企業訪問や協定校訪問をすることでアメリカの企業や学生の考え方に触れること、ホームステイでアメリカの文化に触れることで、旅行では出来ない経験も多くありました。日を重ねるごとに自分の言いたいことが言えるようになり、相手の言葉も少しずつ聞き取れるようになったことは、このRUBeC演習の大きな成果だと思います。しかし、十分なコミュニケーションを取れるようになるためにはまだまだ英会話の勉強や練習は必要です。この演習で終わりにするのではなく、きっかけにすることで、さらなる向上を続けたいと思います。